第50回 土岐市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和7年5月23日（金）14:00～15:30

場所：土岐市役所・2階大会議室

(参加者)

※敬称略

委員	磯部 友彦	山田 和洋	中島 喜久夫(代理)
	水野 礼二(代理)	藤田 明博	稲垣 健児
	吉村 昭典	宮地 統久	田中 英治
	澤田 利幸	三輪 やよい	加藤 千恵子
	坂崎 陽祐	加藤 美由紀	坂本 光浩(代理)
	野田 なつみ(代理)	奥田 泰之(代理)	牧村 潤一
	伊藤 裕次(代理)	渡邊 豪	鈴木 正義
	鷺見 直人	籠橋 昭範	熊崎 直美
	加藤 剛	西部 浩司	
事務局	伊藤 智治	古田 貴祐	西尾 祐人

■議長選出

- ・磯部副会長を議長に選出

■協議事項

(1) 令和6年度決算の認定について

(事務局)

- ・資料1について説明

令和6年度の歳入・歳出総額は2,740,099円で、土岐市からの負担金と預金利息が歳入の主な内訳。歳出は協議会運営費、事務費、事業費（地域公共交通計画推進のための専門家委託料など）で構成されている。監査の結果、いずれも適正に処理・執行されていることを報告。

〈意見・質問〉

- ・特になし

- ・承認

(2) 第2次土岐市地域公共交通計画策定について

(事務局)

- ・資料2について説明

令和9年3月に現行計画の周期を迎えるため、人口減少や人手不足、自動運転の導入など、変化する公共交通環境に対応するため、第二次計画を策定する。今年度は基礎調査、来年度は計画策定業務を実施し、パブリックコメントを経て令和8年度の完成を目指す。

〈意見・質問〉

(加藤(千)委員)

利用者アンケートは、利用者だけでなく、現在、公共交通を利用していない人も回答の対象となるか。

(事務局)

アンケートは公共交通を普段から使う人、使わない人にかかわらず、幅広く実施していきたい。

(吉村委員)

・バスの本数が少ないことや、利用したい時間にバスやタクシーがないため、利用ができない、または送迎しなければならない話を聞く。地元住民が必要な時間帯を考慮した効率的なダイヤとなっているのか。

・新病院の開院が来年2月に迫っているが、どんな交通手段を考えているか。

(事務局)

現在の公共交通の課題はこちらも把握している。新病院のアクセスについても、喫緊の課題であると認識しており、新病院の開院までに既存路線を延伸して病院まで繋ぐことに加え、来年度以降になるが、新たな交通手段として、AI デマンドタクシーを運行させて、病院まで乗り入れていただくような手段を検討している。利用者数を把握しながら、便数の調整や、時間帯の変更を計画していく。

(山田委員)

タクシー業界の現状について説明をすると、乗務員不足という大きな問題の中で、労働時間の問題もある。運転手が高齢化していく中で、優先度の高い病院の話もあり、重点的にどこへ、どの時間帯に走らせるのかを考えながらやっているところ。現実的にタクシー業者の廃業が県内で毎年起きており、厳しい状況であることをご理解いただきたい。

(磯部委員)

専門家としてコメントすると、計画策定の際に大事なことは、市民の生活上、何が必要かをしっかりとらえ、それに対して、交通事業者の困りごとを含め、計画提供できるサービスも限界があるので、トータルで何が出来るか情報を集めて考えること。

(渡邊委員)

駅前では学生を送迎する自家用車が一段と増えているように思う。帰りたい時間にバスがないのかもしれない。また、免許返納者の方で、家族から言われて仕方なく返納した方や、高齢だが生活のために未だ返納できないという方もいる。今後、免許を返納された方がどういった交通を望んでいるか、窓口で意見を聞いてほしい。

(事務局)

どういったニーズがあるかアンケートなどでしっかり把握していきたい。

(磯部委員)

送迎については、困っていないというのが答えかもしれない。いろいろな声を工夫しながら情報収集して、様々な意見を反映させながらすすめていくということで、承認でよろしいか。

・承認

(3) 令和7年度事業計画について

(事務局)

・資料3について説明

令和7年度事業計画について、令和7年度の主な事業計画として、以下の4つの基本方針に基づき報告。

1. 事業者と行政が担う役割の明確化、効率的で持続可能な公共交通サービスの維持：市民バスやデマンドタクシーのデータ分析、路線の再編検討、新病院アクセス対応の推進。
2. 市民との共同による地域に適した交通手段の確保：AI デマンド交通の実証実験（10月開始予定）を通じて、利便性や満足度を調査し、本格導入の可能性を検証。
3. シームレス化による利便性向上と利用方法の周知：土岐市70周年記念事業でのバスふれあいイベント開催等。
4. 新たな施設立地を契機とした周辺交通網の充実：新病院へのアクセス対応（路線変更等）、土岐市駅～土岐市役所間の自動運転実証実験の実施、将来的には新病院までの延伸を計画。

〈意見・質問〉

(磯部委員)

病院アクセスの話は、誰がどのように検討しているか見えないので、紹介をお願いしたい。

(事務局)

まずはたたき台事務局で作成し、まとまったら交通事業者と協議して、その後この協議会で諮りたいと考えている。現在、事務局で練っているところ。AI デマンドについてはつい先ごろ国の補助事業の採択が決まり、ようやく動き出したところなので、今後の協議についてまたよろしくお願ひしたい。

(加藤(千)委員)

老人会として、自分も含め、これから利用すべき年代に入ることになり、免許返納時に困ることになる。そういったことを踏まえて是非アンケートには協力したい。

(磯部委員)

路線再編をするときに、地図上の絵を描くのではなく、誰がどのように使いたいかという情報を集めて作成する、というプロセスが必要。

(渡邊委員)

AI デマンドのミーティングポイントとは。どういう風に設定していくのか。

(事務局)

ミーティングポイントはバス路線でいうバス停のようなものであり、乗り降りができる決められた場所のこと。場所は、泉が丘町から土岐市駅周辺で約 80 箇所を考えている。詳細はこれから事業者と検討していく。

(山田委員)

補足として、瑞浪市でデマンドをやっているが、ミーティングポイントは市民からの要望もある。追突の危険性や、U ターンの問題をはじめとする場所の問題など制約があるため、すべての意見を反映させるのは難しい。また、AI デマンドはタクシーとは異なり、家の前まで来るものではないので、ご理解いただきたい。

(水野委員代理)

交通事業者として、2024 年問題として時間規制の問題、労働時間の問題があるので、新病院のアクセス対応については、早めに方向性を示していただく必要がある。

(事務局)

運行事業者と連携して早急に検討し、協議会でも報告できるような形で進めていく。

(吉村委員)

スクールバスを日中の別の路線で使えば、乗務員不足の問題など、活路が見えるのではないか。

(山田委員)

瑞浪市でスクールバス運行を行っているが、運転手不足から雇用延長が発生し、結果的に運転手の年齢が上がり、長時間労働が難しくなる。短時間労働が増え、中間の時間に仕事が入ると、結果的に労働時間が長くなり課題である。また、スクールバスは子どもたちの安全が最優先である。警報により早めの下校となった場合、病院の方は行けなくなる可能性がある。安全に、計画的にできるかできないかを考えると、スクールバスの日中利用は非常に難しい。

(磯部委員)

乗務員不足は大きな問題。人材確保も計画に入れるよう進めてほしい。

(中島委員代理)

バス運転士の高齢化により、運転できる年齢制限があがっており、健康のチェック項目を増やすなど安全第一で進めているところ。そういった中、運転士確保のため初任給を上げたいが、乗車人数減少により収入が減る中、上げられるかという問題。また、バス会社として、朝の通勤通学は必ず守りたいが、それ以上に運転士が少なくなってきており、ピークの時間でさえ路線を間引くという現実がある。貸切バスの方も、同じく乗務員不足による影響が非常に大きな問題となっている。

(磯部委員)

今年度の計画もいろいろな工夫をしながら、皆様にご協力をお願いしたい。

以上